

今月の論語

過^す猶^{なほ}及^{およ}ばざるがごとし
過^す猶^{なほ}不^レ及^レ(先進第十一)

何事もあまりしすぎると、逆効果である。

今月の帰宅放送は、東原庵舎西溪校9年の白木妃菜さんです



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

○如来は真理に到達し修行を完成した者を称します。
○白毫は白い毛で光明を放ちます。
○銘の十一番は、現在の徳島県吉野川市にある藤井寺です。
○銘によれば、砥川の石工平川藤一が三十体の仏像を制作したと記されています。

坐像と光背が一体化し、別造りの蓮華台の上に安置されています。頭部は螺髪状で額に白毫があります。右手の上に左手を重ね、両手で蓋のある薬壺を持っています。両腿の上に結跏趺坐をした足の裏が見えます。薬師如来は、病苦を除去し疾病を治癒して、寿命を延ばすとされます。
銘「十一番 本尊薬師如来高木川内鶴東西組 女茶講組」
「大正十二年」「十一番ヨリ四十マテ 砥川石工平川藤一」

野の仏ギャラリー ③④
薬師如来坐像

北多久町大字小侍

連載



教育委員会だより
「多久から発信！」
SDGs ④

「食を通じた取り組みから」
5年生の社会科では、日本の食糧生産について学習します。
日本の食料自給率は現在40%ほど。食品廃棄量は2,800万トンで、このうち食品ロス(食べ残しなど)は約620万トンとされています。食生活は豊かになりましたが、食生活の変化による諸問題は、これからの社会を考えるとき、とても重要な課題です。
さて、子どもたちの身近な「食」に、学校給食があります。市の学校給食振興会を平成9年に設立し、学校給食センターでは毎日安心・安全な給食を提供しています。食べ盛りの子どもたちは、給食を通して「地産地消の取り組み」や「生産者や調理に関わる人への感謝」「成長に必要な栄養」なども学んでいます。市の給食の残菜率を見ると、平均して1%未満でした。食品ロスをなくす行動を、多久の子どもたちは示してくれています。
食生活改善推進員のみなさんで構成されている「お多福エプロン隊」をご存知ですか。劇など親しみやすい食育活動を行われており、子どもたちも楽しみにしています。教育委員会では、地域のみなさんの協力を得ながら、今後も身近な「食」を通してSDGsの取り組みを推進します。



川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆ 夜にだけ出掛ける猫も老いてきた 井上 東子
- ◆ 嫌われて世にはびこった コロナ菌 西山 残月
- ◆ しなやかに揺れて心は覗かせぬ 大谷 和
- ◆ 警笛を鳴らして進む霧の中 中尾 和弘
- ◆ 陰性の証明持つて里帰り 高塚チカ子

俳句 《大石ひろ女選》

- ◆ 一合が適量となり年明くる 富樫 明美
- ◆ 初夢の百万円の消ゆる朝 本村 則子
- ◆ 凍空の星の名一つ覚えけり おおやはな
- ◆ 寒風や童顔残る配達夫 武富 律子
- ◆ せせらぎの音にふくらむ 猫柳 清子

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ 三十年来友誼結いし孔女史は 論語碑に文字遺して逝かれぬ 尾形 節子
- ◆ 寒風の強き日なれど巡り来る 季の確かさよ梅はころびぬ 浦野 嘉恵
- ◆ おはようと夫に声かけ照れ笑い 老ろう介護の一日はじまる 梶原恵美子
- ◆ ありがとうずうと貴女とつながって 明るい未来を生きてゆきたい 野崎 隆幸
- ◆ 無数なる蕾をつけて咲く山茶花 一樹の力強さよ 川浪 信子

市民文芸